



八神純子と愛知淑徳中学・高校生の皆さんでチャリティーソング「翼」の熱唱

フレンズのつどい Part. 29

あなたとともに
翼のつどい

八神純子チャリティー・コンサート

8月3日 文化の家・森のホールにて

東日本大震災復興祈念のチャリティーコンサートが文化の家・森のホールで行われました。「震災の記憶を風化させない」との八神さんの熱い気持ちが会場に伝わり、優しい気持ちを持ったコンサートのひとときでした。復興支援から応援へ…皆さまのご協力に感謝申し上げます。

「Here I am」のアカペラで始まったコンサート。アメリカで生活する八神さん。私がどこに居ようが「息の長い支援活動」はできるのだと、歌詞のなかにある「ゆるがぬ心」をこのコンサートで歌い上げた。

前半はデビュー曲の「思い出は美しすぎて」や代表曲ともいえる「みずいろの雨」で会場を沸かせた後、カバー曲「時代」を披露。中島みゆきさんとの思い出話がNHKの「SONGS」でそのまま放送されたエピソードも…彼女の屈託のない人柄が会場の空気を和らげる。

熱い気持ちの「本気度」が 会場を暖かくつつむ…

そして今回の趣旨でもある東北復興支援の活動を、舞台上のスクリーンを使って説明する。はじめは手探りで進めた被災地への

支援。迎えてくれたのは被災者の笑顔。自分の歌にはそんな力があるのだと被災者の方から教えられた…と支援活動のきっかけを語る八神さん。

被災直後に国民の間に「絆」という言葉でつながれ集まった募金。その使途に疑問を持つ人は決して少なくない。八神さんのトランス・パシフィック・キャンペーン（TPC）復興支援活動は、集まった浄財の使途を明確にして実践している。

八神さんの歌声の素晴らしさを賞賛する声と同じように、あるいはそれ以上に「東北復興支援の八神さんの本気度」に多くの人が感銘を受けた様子があがえる。そしてその優しさが会場内に温かい気持ちとして広がる。

TPCの活動紹介のスクリーンが上がるそこには八神さんの後輩の愛知淑徳中学・高校の合唱団40名の皆さんが控えていた。復興応援歌ともいえる「翼」の熱唱で場内のムードは最高潮に…「思わず涙がこぼれ落ちた」と語るお客さまも。

八神さんの提供した サプライズ

「同窓会で八神さんと支援の気持ちが一致してTPCの活



客席に降りての熱唱に会場内もノリノリ

動を行っている」と語る司会の服部恭子さん。お二人から提供されたサプライズは「お客さまのチャリティーの気持ちに込める撮影会」。会場内はカメラや携帯のフラッシュが光り、普通のコンサートでは有り得ない光景がそこにはあった。

後半に入って、新しく出したCDの新曲を披露。昔から歌唱力には定評のあった八神さんだが、結婚後25年の長いブランクがある。ジョギングで体調を整え、ボイストレーニングで鍛え直しての堂々とした歌いっぷりは、まさに再デビューを感じさせない「八神純子復活」。

その姿に「東北復興」を重ね合わせたのは筆者だけだろうか？